

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 11月 11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500131		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい八本松		
所在地	広島県東広島市八本松東5丁目8番34号 (電話) 082-427-3339		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500131-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年11月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当法人内統一して行っているHLC制度、OJT制度を本年度から設け、ご利用者一人ひとりのその状況にあったケア、統一したケアを目指し、又、新人教育にも統一した業務を行えるよう力を入れている。月に1,2度行事を行い、ご利用者に非日常の生活をして頂き、楽しんで頂ける取り組みをしています。当事業所は引き続き、医療職と密に連携を取っており、ご利用者に特変があった場合等に相談させていただいたり、緊急時の対応についても迅速に行える体制をとっております。又、薬剤師とも連携をとり、アドバイスを頂けることもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

今年4月に新管理者となった事業所の特徴的な取り組みとして、第一に「本人と共に過ごし支えあう関係の深化」がある。即ち、今年度重点事業方針の柱としてHLC（ハッピー・ライフ・クリエイター：幸せ計画作り）制度の活用によるケアの統一を掲げ、「その人らしい生活」支援を実現するための介助方法を可視化した。つまり「生活状況記録」の書式を改変し、介護計画と連動させて時間毎に計画に沿った介助が実施されているかを検証すべく、今年度中の周知・徹底を目指し内部研修に取り組んでいる。第二に「運営推進会議を活かした取り組みの深化」がある。即ち、今年度より法人内で運営推進会議において身体的拘束禁止委員会を開催することとし、外部委員の評価を仰ぐ検証システムの導入に踏み切ったことである。今年度の制度改正による身体的拘束等の適正化の方針に沿って、事業所は「ケアの透明性」を推進している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	当法人の理念のもと、当事業所の理念・方針をたてており、以前から立てている理念を引き続き取り入れ、職員が一致した支援を行えるよう取り組んでいる。	法人の理念・目標の下に事業所の年間重点事業方針の策定と定期的検証を行い、又、以前の管理者・職員で作った事業所理念を唱和・掲示してケアを実践する上での立ち返るべき原点として共有している。更にチャレンジシート（法人独自の管理書式）で職員は理念に沿った目標設定を毎年行い、半期毎に管理者との個人面談でその達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前より続いている関係を継続し、さらに関係性を深めていく為、地域の保育所や、子供会の方に参加して頂く行事を引き続き行っている。自治会にも引き続き加入しており、地域の清掃も参加している。ボランティアの方を受け入れし、ご利用者ともお話して頂く機会を作れている。	日頃から近所への散歩や買い物で地域交流を深めている。自治会に加入し、秋祭り、町内清掃等の地域行事に参加したり、ひよっこ踊り・傾聴のボランティアを受け入れる等、相互交流もなされている。又、事業所の花火大会に地域児童の参加や地域の保育所からの訪問等、世代間交流にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、実現できていない部分ではある。地域の方とお話をする上での相談頂くことはあるが、もっとたくさんの方から気軽にご相談等頂ける環境を作りたい。引き続き運営推進会議でも議題に出し、今後の実現に繋げたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在も当事業所でのサービス内容等の報告をし、改善した方が良い内容は参加者より今までの経験や、他事業所の例も挙げて頂きながら助言を頂いている。今後のサービス向上に役立てている。	会議には自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員がほぼ毎回参加し定期的に開かれている。毎年家族代表を決めており、今年度は体調不良にて欠席中であるが、不参加家族全員に議事録を送付している。会議では現況報告や意見交換が行われ、参加者からの提案で地域清掃に参加するようになった経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口へ出向いたり、電話での連絡相談を積極的に行いながら、協力体制の向上に努めている。事務手続きの相談にも応じて頂いており、書類の提出等スムーズに行えている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し情報共有が図られており、会議の開催報告書は市担当課に送付している。日頃から介護保険制度改正に伴う事務手続き等に関する相談・助言により協力を得ると共に、行政主催の虐待防止等の外部研修にも参加して連携強化を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体的拘束等の適正化のための指針を立て、内容を把握し、身体拘束予防に努めている。玄関を開錠するにあたり、チャイムも設置し、外へ出たい方に対してはスタッフが付き添って対応している。定期的に委員会も開き、運営推進会議時に外部の方からの意見も伺えている。</p>	<p>今回の制度改正に伴い、身体拘束の適正化に向けて委員会等の整備にも取り組み、拘束例はない。日中は玄関を施錠せず、玄関の開閉を感知するセンサーによる見守りで対応している。利用者によっては夜間ベッド周辺に床センサー・マットや赤外線離床センサーを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ヒヤリハットを通して、ささやかな出来事にも注意を傾け、定期的に身体の確認も行っている。言語での虐待もないよう何気ない言葉遣いや、行動がないよう上記同様、委員会を開き、予防に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>日常生活自立支援事業、成年後見制度についての知識が十分かと言えば、十分でない部分がある。個々のケースに応じて必要がある場合、検討は管理者を中心に行うようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、しっかり説明の場を設け、質問をお受けするようにし、同意をその都度得ている。その場で答えられない質問に関しては、他部署と連絡を取り合っ、迅速にお答えするよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回、家族会を設け、ご家族とも意見交換をする場を設けている。また、面会に来られるご家族又、面会が難しいご家族に対しても、適宜電話をしご要望をお伺いしている。ご利用者に対しても、要望があればお答えできる様、ご意見を傾聴し、運営に反映させている。ご意見箱も設置し、直接言いつらいご意見に対しても把握できる様努めている。</p>	<p>利用者は意見表出困難な方が多く、家族とは意見箱を介したり、面会時・毎月のモニタリング・介護計画見直し時や運営推進会議や年2回の家族会等で、利用者毎の担当職員や管理者が積極的に聴く様に努めており、申し送りノート等に残して共有している。家族からの要望で利用者の席の配置を調整した例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>主にミーティングや、会議等で意見を聞く機会が多いが、通常の勤務を行いながらの意見交換も行っている。迅速に対応できる物はその場で行うが、難しい物に関しては、アンケートを配布し、全員の意見も取り入れ、運営に反映させる様努めている。又、定期的に課題レポートも一部の職員に作成してもらい、その意見、課題に取り組んでいる。</p>	<p>毎月の全体会議、毎日の申し送りや定期又は随時の個別面談を通して管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。又、懸案事項に対するアンケート聴取や常勤職員に対する定期的な課題レポート徴収により集約した意見も反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>チャレンジシートで一年ごとに自ら目指す目標を立て、その達成度で評価できる仕組み、あるいは、能力・実行課題表を通して、その成果や実績を評価し、各個人の評価を決定している。又、法人内でのマイスター試験を実施し、一人ひとりの評価実績が給与に直結できる仕組みも取り入れている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>日頃の業務遂行状況を、能力・実行評価表を通し、職員一人ひとり进行评估し、足りない部分や伸ばしたい部分を見極め、法人内研修を中心に各自研修に参加していく体制をとっている。又、力量をみながら業務の割り振りを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内の他事業所との会議や、研修等で情報交換をしながら、交流する機会を作っている。又、懇親会等の行事には積極的に参加し、交流を深めるようにしている。他法人については電話でのやり取りが多いが、同業者と空室状況の確認や、パンフレットの配布等を行う機会もある。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時及び、面会時には、ご家族より詳しい情報を頂き、各ご利用者ごとに担当を決め、ご本人と関わりを深く持ち、食事・排泄・入浴等の生活を共にすることで、信頼関係を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者を中心に、又は、担当者が窓口となり、少しでも困っている事、不安に思っている事の解消になる様、ご家族の声を聞く姿勢を常にとっている。初めに笑顔であいさつすることはもちろん、何気ない会話も大事にしながら、話しやすい環境になるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前の事前訪問を含めて、ご家族の一番困られていることからお話を伺い、必要とされていることを見極めるようにしている。又、従前のご利用サービスの介護事業者の方々からも情報収集し、その対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	アセスメントシートを中心に情報収集し、ご本人がしたいことを実現できるように支援している。また、一緒にお菓子作りをしたり、洗濯物たたみ等できることを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事・個別援助等にはできるだけご家族の方にも参加頂き、ご本人とご家族の関係が維持できるよう機会を設けている。又、面会の際には、居室にてゆっくり過ごして頂き、その時間を大切にさせて頂いており、普段の様子については、写真とともに毎月お手紙にてお知らせをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人の方の面会もお受けしており、ご家族や、馴染の方もすぐに入出りできる環境にはある。又、住み慣れた場所へ出向き、花見等ゆっくりできる時間を行事等で設けている。外泊等、実現が難しいこともあるが、ご家族に支援等のお話をさせて頂きながら、自宅への帰宅も支援している。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしており、散歩の途中で知人と挨拶を交わしたり、近所の方の面会や自宅近くで行われた花見行事に参加したり、顔なじみのボランティアと地域の祭りで涙の再会を果たす等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	隣り合って座って頂く配置を変更したり、職員が間に入って馴染みの関係づくりへの支援を行っている。アクティビティやレクリエーションでも一緒に集まって頂き、交流の場も設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用が終了した方（ご家族）とも、時折連絡を入れ経過観察や、相談頂く場を設けている。又、他施設へ移られたご利用者の施設の職員からお話を伺う機会もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者一人ひとりに何が出来るか、担当職員を主とし、生活歴等から希望等を割り出しその希望が実現できるよう努めている。	入居時に「ライフストーリーシート」で利用者の習慣や好み等の情報を共有し、その後はその方の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り行動を理解する様努めている。ケアの統一を図るため毎月情報更新を行う。利用者は意見表出困難な方も多く、家族の代弁により利用者の好物の鰻を提供した経緯がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族からの情報をもとに、定期的に生活歴の書式の更新や、アセスメントを定期的に見直して、ご本人の小さな変化も記録等も踏まえて見逃さないよう観察、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送りや、毎月のモニタリングを通して、現状の把握に努めている。各担当者が主となり、アセスメントの見直しを行い、適切なケアを提供できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のモニタリングにより、現状を把握し、状態の変化を見逃さず、担当の職員を主とし、原案を考え、計画作成担当者が中心となり、計画の作成を行っている。</p>	<p>利用者毎の担当職員が情報収集し、その集約と原案作成は計画作成担当者が行い、面会時に家族の同意を得て本案としている。担当職員が毎月モニタリングを行い、半年を基本に計画を見直す。天候により散歩や廊下歩行で下肢筋力の維持・改善を図ったり、ミキサー食から刻み食に食形態の改善に繋がった例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活状況記録の裏面に個別記録を出来事の項目に分けてできるだけ詳しく記録し、モニタリングやケアプランの作成に反映できるようにしている。ケアプランの内容もしっかり実践できるようサービス内容を記載し、実行できたか確認できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>日々の業務に追われ過ぎないように、柔軟な発想を大事にしている。ご本人のニーズが実現可能ならできるだけ早期に対応するようにしている。日々の業務内容に応じて入浴時間を変更する等、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>個別の地域資源もできるだけ活用させて頂く様心掛けています。地域の祭りへの参加や、保育所との交流又、ボランティアの受け入れも行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体の下山記念クリニックと24時間連携を取っている。定期的な往診を中心に医師からの診察も受けている。必要があれば、クリニックにて受診させて頂いている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、全利用者は協力医を主治医とし、協力医から月2回往診があり、専門医の受診は家族による。医療連携により週1～2回訪問看護師の来訪があり、利用者の健康状態を把握している。又、基本週1回の協力歯科医による往診と相俟って適切な医療が受けられる体制となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>訪問看護師に週1回訪問頂いており、ご利用者変わったこと、困ったことに関して相談させて頂いている。又、状況によって電話にて相談させて頂くこともある。月に1回行われている医療連携会議等を通して、連携を深めているよう努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は職員が付き添い、細かい情報交換を行っている。入院中の適宜の面会や、医療連携室のソーシャルワーカーを通して現状の把握や、退院後のケアについて病院関係者やご家族と連絡をとるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>医師、看護師、ご家族、職員でカンファレンスを開き、説明や情報の共有、今後の方針等を話し合い、ご本人に合わせた苦痛の少ない、本人らしい生活が最後までできるよう支援している。適宜のカンファレンスにて職員同士も話し合いその時々によって柔軟な対応ができるよう心がけている。</p>	<p>利用開始時に「終末期の看取り等について」を説明し意向確認を行っている。利用者や家族の要望があれば看取りを行なう方針であり、マニュアル・研修も整備され、経験ある職員もいる。看取り対応の際は医師・家族・関係者で話し合い、指針に沿った支援を行う考えであり、事業所として数例の看取り経験もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応について具体的な対応研修を定期的に行っている。又、医療職にも指導頂くこともある。急変が夜間の場合も、看護師に連絡できるシステムも導入している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>定期的に消防訓練を行い、災害時の対応を学ぶようにしている。地域の代表者や近隣住民にいざという時に協力をお願いできる体制をとっている。</p>	<p>消防署指導の下、年2回の避難訓練を昼夜想定で利用者も参加して行っている。ハザードマップの該当地域ではないが、運営推進会議の参加者でもある自治会長が地域の消防団長でもあり、緊急時に連絡があれば近隣住民も1次避難に協力できる体制はある。又、このたびの災害時も系列事業所間の相互支援体制が機能した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者一人ひとりの尊厳を第一とし、信頼関係を深められるよう努めている。誇りを損ねない様、必ず名字でお呼びし、言葉遣いにも注意している。各居室にもノック、声掛けをしてから入室するよう心がけている。	接遇研修等で、職員の幅広い知識の習得を図る体制もあり、入室・排泄・入浴時のプライバシーについても、職員は利用者目線に対応し、馴れ合い的な声掛けや利用者の意向に沿わない言葉を意識できる職員育成にも取り組んでいる。個人情報の保護もファイルは事務室ロッカーで保管し、慎重な取り扱いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各ご利用者に担当を決めて馴染みの関係を持ち、ご本人からの思いを聞き出せるよう努めている。意思表示が難しい方には、担当者が気付き、意思をくみ取れる環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者一人ひとりに対し、排泄等の時間を把握し、声掛け、誘導を行っている。支援もその方のペースに合わせた対応できるよう努めている。ご利用者の体調に応じて食事の時間等変更することはあるが、共同生活を送って頂き、ご利用者同士の関係作りの為、可能な限り、一緒に食事や、レクリエーションをして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自宅から持参頂いた衣類の中からご本人にあった衣類を着用して頂いている。又、2か月に1回は、訪問美容を依頼しており、定期的に訪問頂くようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の摂取が難しい方は少しでも召し上がって頂けるよう好みの物を提供したり、食事形態に留意している。	三食とも宅配業者の献立により調理された食材が運ばれ、事業所で加熱・盛り付けを行う。ご飯にあんをのせたり、卵かけにして食べ易くする等の工夫や、おやつレクで栗の皮むき等を利用者も手伝っている。高さ調節可能なテーブルや高さの異なる椅子等、誤嚥の少ない前かがみの姿勢が取れる環境面にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の配達業者から栄養面に関して配慮頂いている。栄養が足りない物に関してはこちらで個別に摂取頂いている。食事量、水分量共に、個々に確保できるよう記録にも留意しており、午前と午後で、職員が把握できるよう摂取量を記録し、状況をすぐに確認できるようにしている。またその方の好きな飲み物も提供するようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、洗面所に誘導し、口腔ケアを行っている。ご自身でできないところは職員がお手伝いさせて頂いている。また、かかりつけ医とも連携を行い、一人ひとりにあった支援を行い、口腔内の衛生を保てるよう支援をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>失敗なく、トイレで排泄して頂けるように、一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ内のファンレストテーブルの使用も取り入れ、その方にあった介助方法にて支援を行っている。</p>	<p>その日の摂取水分量等も含む「生活状況記録」で排泄パターンを把握している。ここでは特殊な手すりを設置し、便座に座って倒した手すりに寄りかかり、腹部に力を入れ自力で排便し易くしたり、車いすから便座に移乗し易くする工夫や、布パンツからのパット外しにも挑戦する等、排泄の自立支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>飲食物の工夫や、腹圧がかかる運動、マッサージを取り入れ、できるだけ薬に頼らない排泄を援助している。又、医師、看護師にも相談し、一人ひとりにあった対応をしている。水分量も適宜確認を行い、便秘の原因にならないよう努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴の時間は現在、午後1時30分頃から対応しているが、ご本人の希望、その日の様子などにより日にち、時間を変更することもある。3日に1回は入浴して頂いている。入浴方法もご利用者一人ひとりにあった支援を行っている。</p>	<p>週2回の午後入浴を基本とするが、利用者の体調や入浴習慣により柔軟に関わっている。入浴は前屈みの座位を取りやすい半埋め込み式家庭浴槽で、浴槽に移乗し易い可動式入浴台や浴槽用手すり等を設置して支援をしている。法人内の独自の研修体制で入浴介助力を高め、又、白色ワセリンで皮膚保湿にも努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>ご本人が安心して眠れる環境作 りとして、静かな個室の環境作 りに配慮している。場合によっ てはその方の生活習慣に合わせ てリビングのソファにて休んで 頂くこともある。ご本人が安心 して眠れる環境を個々に考え、 対応している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>医師からの説明や、薬剤師から の意見又、処方箋を通じて情報 を収集し、服薬によると思われる 変化、異変は看護師とも情報交 換をし、適切な支援に繋がるよ う努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>生活歴を見直し、ご本人の状 態にあった役割や楽しみごとを 実践できるように、ご家族に頂 いた情報を活かして判断してい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>ご利用者様のその日の体調を 配慮し、職員が付き添い、外気 浴を含め、散歩に出かけてい る。ご家族の要望も取り入れ、 定期的に外出して頂く様努め ている。</p>	<p>日頃から近隣の散歩で挨拶を 交したり、スーパーに買物に出 かけている。家族の協力で外食 ・受診等に出掛けたり、季節 行事として初詣・花見・紅葉 狩り等、普段は行けないよう な所へ外出し、「非日常」を楽し むこともある。事業所駐車で 秋祭りの神輿との交流や事業 所の花火大会や屋外喫茶を楽 しむ事もある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>基本的にご本人もちの金銭の 管理は行っていない。立替で、 ご本人様がお使いになられる 物を職員が買い物をし、支援 を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>主にご家族様よりご連絡頂きご要望を頂いた上でお電話をお繋ぎしている。ご本人様からのご要望がほとんどないことと、お手紙を書くことが難しい方には、職員が代筆し、ご家族へお渡しすることもある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングには背丈より大きい窓が並んでおり、日中はカーテンを開け日差しを取り入れている。自然に囲まれた環境で、騒音もなく、穏やかに過ごせる状況にある。外には小規模だが花壇を設けており、季節にあった花等を育てている。</p>	<p>フロアは窓から明るい光が差し込む開放的な空間であり、正月・クリスマス等、行事の飾り付けやちぎり絵等で季節を感じてもらい、正月のお節等で季節を味わう。天井エアコンの風よけ、浴室の暖簾・可動式入浴台、トイレの特殊な手すり等、「当たり前な生活」を支えて居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ご利用者様一人ひとりにあったテーブルや、座席の位置、空いた時間にはソファにて過ごして頂く等、職員同士で話し合っている。職員一人ひとりにアンケートをとったり、ミーティングにて話し合いをする場も設けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご自宅で使われていた、馴染みのある家具を持参頂き、少しでもご自宅での暮らしに近づけるよう努力をしている。また、ご家族様との写真も貼布し、いつでも見て頂ける環境にしている。</p>	<p>居室にはベッド・エアコン等が備え付けられ、タンス等、使い慣れた物や家族の写真等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、その方のベッド高を決める下げ紐の工夫や夜間排泄時の転倒防止のためセンサー床マットや赤外線離床センサーを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ご本人様ができることを最大限に活かし、一人ひとりにあった介助方法が統一して行えるように、アセスメントをしたうえで、その状態に合った援助方法をその場に応じて確立している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい八本松

作成日 平成30年12月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現状、会議にご家族又、ご利用者の参加ができていない	地域の方と、ご家族又、ご利用者との交流を深めると共に、率直な意見交換を行いたい。	来所時やお電話にて参加の声掛けを行う。ご家族の負担、無理に参加頂かない様、日時の調整等行い、配慮した上で、参加しやすい環境を作る。	平成31年4月より実施予定
2	35	地域の方の訓練の参加が不十分である。	地域の方との連携の再確認を行い、コミュニケーションの場となり、協力体制を深めたい。	運営推進会議の場をメインとし、自治会長を通して、提案を進めていく。	平成31年3月又、9月の消防訓練時
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。